

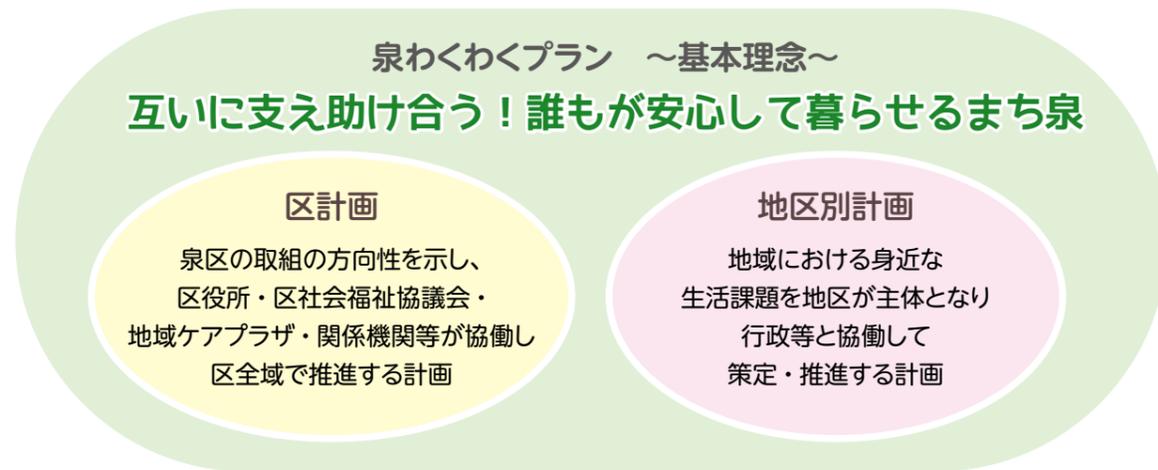
第1章 泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）とは

1 はじめに（計画の目指すこと）

(1) 泉わくわくプランとは

泉わくわくプランは、「互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉」を基本理念とし、基本理念が示すまちを実現するための取組を表した計画です。

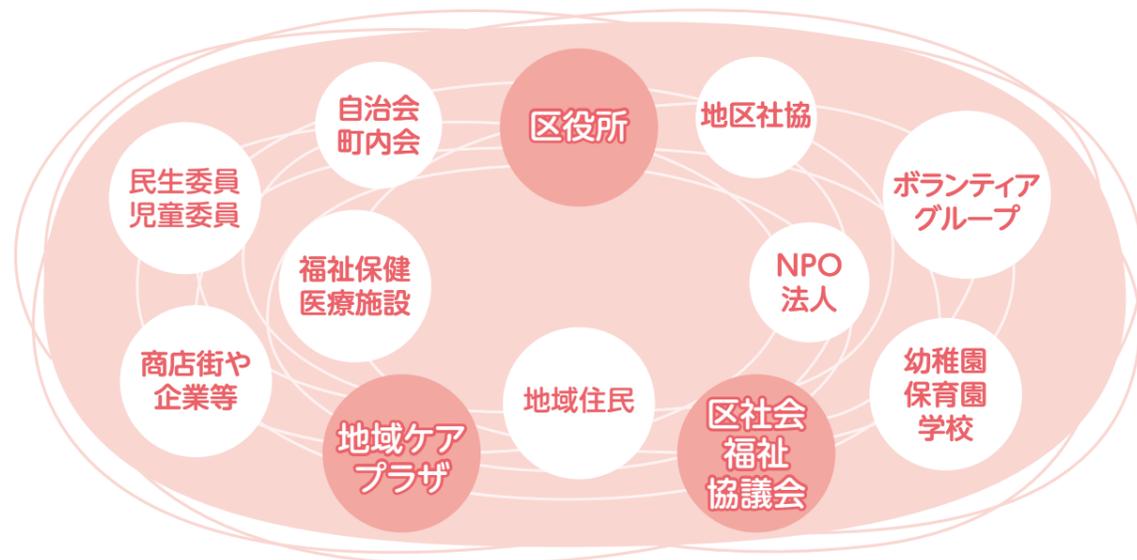
この計画は「地区別計画」「区計画」の2つで構成されています。「地区別計画」は地域が主体的に策定し、地区ごとの課題解決に向けて地域主体の取組を進めていくための計画です。「区計画」は地区別計画を支えるために、区域に共通する課題解決に向けて、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが、区民や関係機関と協働した取組を進めていくための計画です。



(2) 計画を推進していくために

泉区に住む誰もが、互いに支え助け合える関係を作り、誰もが安心して暮らせるまちを実現するためには、地域住民と行政、関係機関・団体等が協力して地域づくりに取り組む必要があります。

計画の策定を通じて、地域住民と行政、関係機関・団体等が地域ごとの現状や課題を明らかにし、より良いまちづくりに向けた目標を共有することで、同じ方向を見据えてそれぞれの役割に応じた取組を進めていくことができます。



2 泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）の位置づけ

(1) 策定の期間

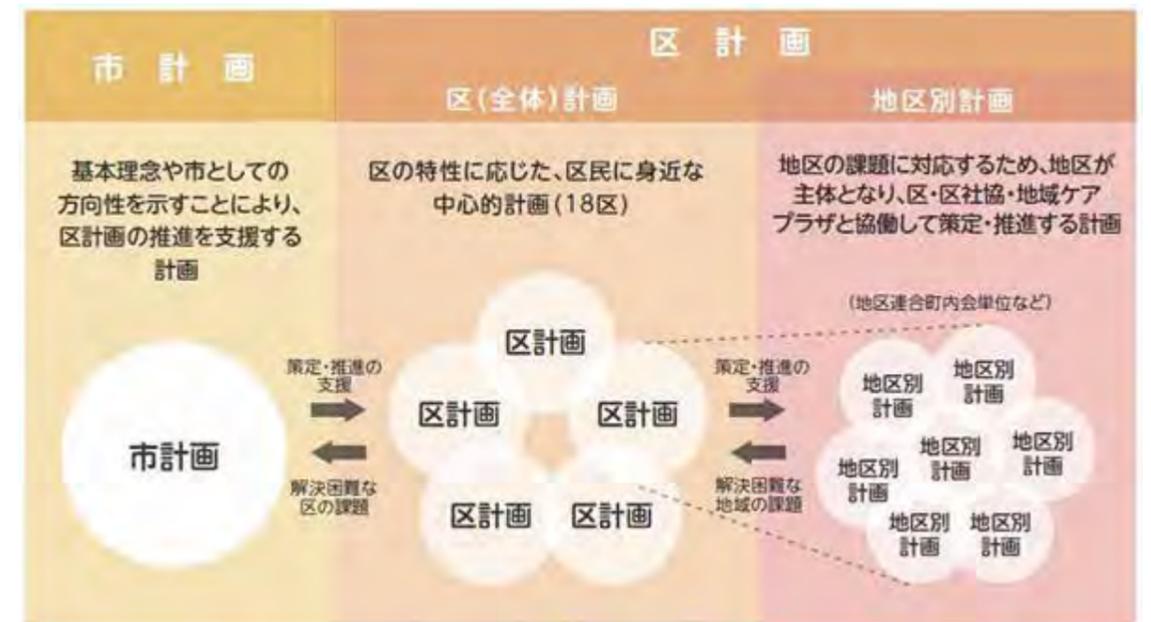
地域福祉計画は、社会福祉法第107条の規定に基づき、市町村が策定するよう努めることが位置づけられています。横浜市では平成16年度に第1期計画を策定し、第2期計画より名称を「地域福祉保健計画」とし、福祉と保健の取組を一体的に推進しています。

第5期泉わくわくプランは令和8年度から12年度までの5年間を対象とする計画です。

単位(年)	平成										令和															
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
市計画	第1期		第2期			第3期			第4期			第5期														
区計画	第1期		第2期			第3期			第4期			第5期														

(2) 市計画（横浜市地域福祉保健計画）との関係

横浜市の計画は、市計画・18区の区計画・地区別計画で構成されています。それぞれの計画が連携を図りながら地域の課題解決に向けた取組を進めていきます。

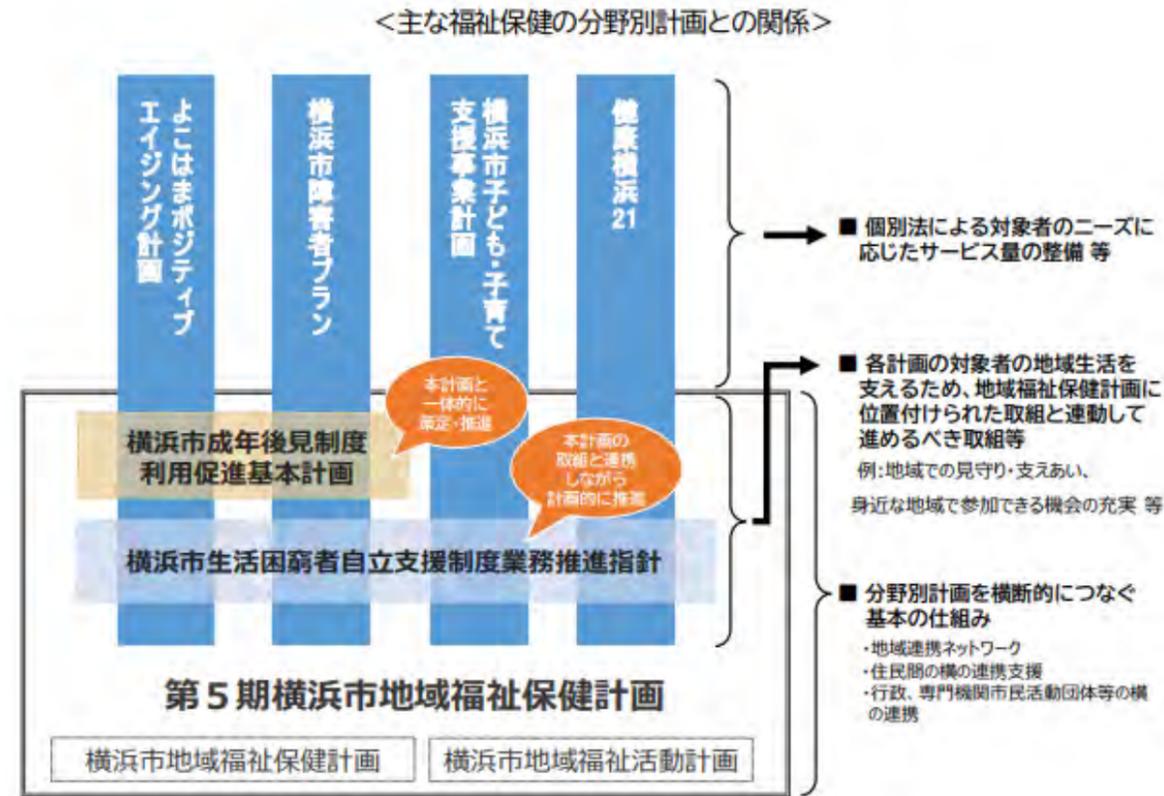


(出典：第5期横浜市地域福祉保健計画)

(3) 福祉保健の他分野計画との関係

地域福祉保健計画は、地域の視点から高齢者、障害のある方、子ども・若者等の対象者や、保健や健康に関する分野別計画に共通する理念、方針及び取組推進の方向性等を明示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。

また、分野別計画に掲げた事業や地域活動支援は地域福祉保健計画と連動して取組を進めることで対象者の地域生活の充実を図っていきます。



(出典：第5期横浜市地域福祉保健計画)

(4) 地域共生社会について

日本では人口減少が進む一方で単身世帯が増加し、少子高齢化が進んでいます。それに伴う地域活動の担い手不足や、住民相互の「つながり」が徐々に希薄化することにより、様々な生活課題を抱える方が、誰にも相談できずに孤立し、問題が深刻化してしまうことも珍しくありません。

そのような中で、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域の多様な主体が参画し、人や社会資源が世代や分野を超えてつながることで、様々な生活課題を抱えた方を地域が見守り、住民一人ひとりが生きがいと役割を持ち、安心して暮らせる社会のことを「地域共生社会」と言います。

地域共生社会の実現に向けて、市町村が「包括的な支援体制」づくりに努める旨、社会福祉法に規定されました。

(5) 横浜型地域包括ケアシステムについて

本市では、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療・介護・生活支援・介護予防が一体的に提供できるよう「横浜型地域包括ケアシステム」の構築を進めてきました。今後、総人口の減少が始まる中、2040年頃にかけて、高齢者人口は増加し続けることが見込まれています。そのため、医療、介護、生活支援などのニーズは、更に増大することが予測されることから、横浜の強みを生かして、「横浜型地域包括ケアシステム」を深化・推進します。

1. 横浜型地域包括ケアシステム～2025年・2040年を見据えた中長期的な将来像～

目指す将来像

- 地域で支え合いながら
- 医療や介護が必要になっても安心して生活でき
- 高齢者が自らの意思で自分らしく生きることができる



横浜の強みを生かし、次の視点で「横浜型地域包括ケアシステム」を深化・推進します

視点1	「地域ケアプラザ」を中心に、日常生活圏ごとに推進します
視点2	活発な市民活動や企業との協働を進めます
視点3	「介護予防・健康づくり」「社会参加」「生活支援」を一体的に推進し、健康寿命の延伸につなげます
視点4	医療と介護の連携など、多職種連携の強化を進めます
視点5	高齢者が「地域を支える担い手」として活躍できる環境整備を進めるとともに、医療や介護などの人材確保・育成に取り組みます
視点6	データに基づく施策立案を進めるほか、デジタル技術を有効に活用すること等により、介護現場における業務改善（生産性向上）に取り組みます

(出典：第9期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画)